

## はじめに

2020年、中国・武漢から始まった新型コロナウイルスの世界的蔓延により、人類は歴史的に初めて、ほぼすべての経済を閉じてしまった。

09年のリーマンショックの際は、米投資銀行のリーマン・ブラザーズが破綻、その影響で倒産の連鎖が起き、金融危機を引き起こした。しかし、そのときは話が違ふ。なぜなら感染症により全世界が閉ざされたからだ。

歴史をさかのぼると、人類は数多くの感染症と戦ってきた。今世紀だけでもSARS（重症急性呼吸器症候群）や鳥インフルエンザなどが流行し、そのたびに経済的なダメージはあったが、世界的にマクドナルドや空港までが閉ざされたことは一度もなかった。

新型コロナウイルスに対する各国の対応は間違っていたと言えるだろう。病気よりも治療薬が体によりひどい害を及ぼすことがあるが、今回がまさにその典型的な例だ。都市封鎖のせいで、多くの人々が経済的に破綻し、店やレストランの多くは二度と開くことはないだろう。だからこそコロナの影響は長期に及ぶことが予測される。

20年秋になって、ようやく都市の厳格なロックダウンがパンデミックに対して効果的ではないという見解が出始めたが、経済の失速を食い止めるのには遅すぎたのだ。

アメリカをはじめとする各国政府は、現在債務を逃れるために異常な数の紙幣を刷り続けている。この状況は世界経済に対していずれリーマンショック時より何倍も大きな打撃を与え、より長期にわたり多くの人を苦しめることになるだろう。リーマンショック後にも世界の中央銀行が金融緩和をしたが、今回の規模は当時よりもずっと大きい。

そもそも、コロナショック前にも私の祖国であるアメリカは世界最大の債務国だった。そこからさらに数兆ドル単位で債務が増え続けていて、もはやアメリカの若者に明るい未来はないだろう。

私の愛する娘たちは現在17歳と12歳だが、彼女たちは栄えているアメリカを将来見ることはないと思う。とてつもない額の負債がさらに膨れ上がり、返済するあてもないからだ。いずれは金利が急上昇するだろう。そうなればアメリカのいくつかの都市、州、そして下手をしたら国が破綻してしまうだろう。同じように債務を増やし続けるほかの国々についても同じことが言えるはずだ。

コロナショックをきっかけに、私の人生史上、最大級の大不況が迫っていることは間違いないだろう。多くの人が資産を守れないような状況に陥るかもしれない。しかし、私のような投資家にとっては人生最大のベア（弱気）相場が到来する可能性が高く、千載一遇のチャンスとも言える。私が投資家として成功したのは、いつもブル（強気）相場ではなく、ベア相場を追いかけてきたからだ。

こんな状況下で私がどう考え、どんな行動をとったか。世界の過去と現在、そして未来を見据えながら、本書の中で改めて皆さんにお伝えしたいと思っている。

ジム・ロジャーズ